

【特別支援学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立盲学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・自立と社会参加に向けた力の育成のために、保護者や関係機関と連携を取りながら、幼児児童生徒の実態に応じた支援・指導を行った。 ・専門性向上に向けた研究・研修の充実のために、職員研修等を通して専門性の向上に努めた。また、力を引き出す授業の実践を念頭に校内研究を進めた。 ・「目の支援センター ゆうあい」を中心に、関係諸機関とも連携しながら、弱視学級との連携や、地域に対する支援、啓発活動等を行い、センター的機能を周知することができた。
2 学校教育目標	視覚に障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援を行い、自立と社会参加及び心豊かな人格の形成を目指す。 - 明朗・友愛・自立 -
3 本年度の重点目標	『夢をはぐみ、未来をひらく盲学校』～アップデートと持続可能性～ (1) 自立と社会参加に向けた力の育成(幼児児童生徒) (2) 専門性向上に向けた研究・研修の充実と力を引き出す授業の実践(教職員) (3) 視覚障害教育センター的機能の充実と周知(社会・地域)

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1) 共通評価項目								
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	最終評価 実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言	
●学力の向上	●幼児児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師国家試験模擬試験で合格圏内の生徒100% ○「学力の定着が図られた」「自立活動や各教科等を含めた指導における指導と評価が適切に行われた」と回答する教員・保護者80%以上	・学習内容及び方法を適切に設定し、学習評価を通して効果的な学力の向上を図る。 ・国家試験・大学入試対策として、模擬試験、補習授業、課題配布及び課題テストを実施する。 ・全国学力・学習状況調査や県小・中学校学習状況調査、単元テスト、点字テスト、珠算検定等各種検定等を通して個々の学力の把握に努める。 ・自立活動の指導内容及び方法、評価等を適切に実施する。 ・各教科等を含めた指導では、一人一人の実態に応じた適切な指導の在り方に留意する。					進路指導主事 各学部主任
	●心の教育	●幼児児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「将来の自立と社会参加に向け、生きる力や豊かな心を身につけさせる指導が、発達段階に応じて適切に行われた」と回答する教員・保護者80%以上	・幼児児童生徒一人一人の夢や希望をふまえ、学校生活のあらゆる場面で支援と働きかけを行い、生きる力を育てる。 ・防犯、薬物、性教育講話等、さまざまな角度から人権意識の向上に努める。 ・幼児期から特別活動や学校行事等への参加を通して望ましい人間関係を形成し、集団意識を高め、他者への思いやりや社会性を養う。				生活指導部主任
		●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「幼児児童生徒が安心して学ぶことができる環境作りに努め、一人一人の不安や悩みに寄り添いながら、いじめのない学校作りに取り組んでいる」と回答する教員・保護者80%以上	・学校生活アンケートを実施して一人一人の心の状態を把握し、安心して学べる環境づくりに努める。 ・教育相談体制を充実させる。 ・スクールカウンセラーによる講話と演習を通して自己解決能力を高める。				生活指導部主任 (保健指導主事)
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	◎「幼児児童生徒が夢や希望を持ち、将来の自立と社会参加に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「幼児児童生徒の夢や希望に応じたキャリア教育及び職業教育ができています」と回答する職員・保護者80%以上	・キャリアパスポートを活用し、児童生徒が自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返りたりできるようにする。				教務部
		○「健康観察簿」の記入・提出状況100% ○「日々の健康チェックを通じ、将来の自立と社会参加に向けた生活習慣の確立に努めている」と回答する教員・保護者80%以上	・「健康観察簿」への記入と活用を促し、健康チェック(朝食・歯磨き・検温)の習慣を身につけさせる。 ・「保健だより」を毎月発行し、基本的な生活習慣の形成に役立つ情報を発信する。 ・長期休業前に生活指導と保健指導の両面から講話を行い、生活習慣形成への意識付けを行う。					生活指導部主任 (保健指導主事)
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○「地域一般に対する効果的な相談支援活動や啓発・広報と、地域の見えにくさのある幼児児童生徒への有効な教育的支援が行われた」と回答する教員80%以上	・「目の支援センター ゆうあい」として、地域に対し相談支援活動や啓発・広報活動等を行う。 ・弱視学級や見えにくさのある幼児児童生徒の所属校等と連携し、研修会の実施や定期的な情報提供等を行う。 ・巡回相談を行う学校・園に対し、実態や状況に応じた助言を行う。					相談支援部主任
		●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する職員100%	・定時退勤日を設定し、計画的に業務を行う。 ・必要に応じて学校行事や各業務分掌等の業務内容を見直す。				教頭 事務長
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○円滑な教育計画の実施	○「重点目標達成のための年間行事計画が作成され、授業時間数の確保と学校行事等が両立できた」と回答する教員80%以上	・曜日の振替等により授業時間数の確保に努めるとともに、学校行事等のために必要な時間を確保する。 ・学校行事に関しては、計画やねらいを職員間で共有し、円滑に運営する。					教務主任
		○個別の教育支援計画	○「幼児児童生徒及び保護者の希望やニーズに基づいた個別の教育支援計画が作成され、運用された」と回答する教員・保護者80%以上	・本人・保護者の希望やニーズを的確に把握し、作成相談や支援会議を通して、個別の教育支援計画を作成・運用する。				相談支援部主任
○教育活動	○個別の指導計画	○「個別の指導計画を生かした指導・支援が適切に行われた」と回答する教員・保護者80%以上	・個々の実態と教育的ニーズに応じた指導計画を作成し、職員間、保護者との情報共有を密にしながら指導・支援を充実させる。					各学部主任
	○校内研究・職員研修の充実	○「校内研究・職員研修により指導力が向上した」と回答する教員80%以上 ○「校内研究・職員研修の充実が図られている」と回答する保護者80%以上	・校内研究・職員研修を計画的に実施し、視覚障害教育の専門性の向上、授業実践指導力の向上を図る。 ・新転任者研修や校内スキルアップ研修、外部講師による授業参観指導等を実施するとともに、出張報告会を通して研修の成果を共有化し、視覚障害教育の指導力・専門性の向上を図る。				研究研修部主任	
	○教育の質の向上に向けたICT活用	○「ICT機器を利用して、幼児児童生徒一人一人の視覚機能に応じた教材を活用できる」と回答する教員90%以上 ○情報セキュリティ確保に関する調査に適切に行っている」と回答する職員90%以上	・ICT活用教育について、視覚障害のある幼児児童生徒に特化した教材の工夫に関する研修会を行う。 ・「ICT-LETTER」を発行してICT活用教育・情報セキュリティに関する情報を提供する。				図書・情報部主任	
	○寄宿舎における生活指導	○「寄宿舎生一人一人の実態に合わせ、自立に向けた支援指導が達成された」と回答する指導員・保護者80%以上	・個々の寄宿舎生の実態把握を綿密に行い、指導員全体で最も適切な手段を講じる。					舎務部

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	
--------------------	--